

Baumkuchen



森  
才  
又  
邇  
循



su

Baum



美術  
マ  
通  
信

私たちは  
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、  
それを現そうとします

今回の表紙について：重ねて層にして（イスン）



最近、気になる色は…紫陽花色  
「紫陽花色に薫る」若い頃、画題に使いました。  
雨上がりに、ひとつの花が多様に薫るように彩る姿を描きました。

in a

# 光を生きるあなたへ

光ンヤン

## 第10回 「つながるとひとつは同じ？」

トソスンヤン ありがとうございます。

どんなに目の前の人のが苦手で、遠ざけたいと思っても、その人と完全に離れることはできません。

なぜなら、自分とその人は、もともと「ひとつ」だからです。

我々は、その、もともと「ひとつ」であったことを忘れ、そして離れたいとか、つながりたいと思います。

「ひとつ」と言うのは、二人がつながった状態を言うものではありません。

つながっているとは、別々のもの、と言う前提があります。

しかし、ひとつになるにはつながりが必要です。

「はて？」

「つながる」と「ひとつ」は、同じ階層構造における「層」の違いです。

人間の体は、肝臓や心臓や脳や膀胱などの臓器があって、それらは血管や神経系によって「つながって」いますが、体はそもそも「ひとつ」です。

初めから体は「ひとつ」であり、その「ひとつ」を成立させているのは、各臓器のつながり、と言うことです。

つまり、各臓器と言う個別の視点は「つながり」を示す層であり、体と言う全体の視点は「ひとつ」を示す層である、と言うことです。

“わたし”と“あの人”は、個人という視点で見ると、確かに別々で、時には喧嘩していて、互いにそっぽを向いてつながっていないかもしれませんが、実は、全体の視点で観ると、“わたし”と“あの人”は初めから「ひとつ」です。

ただ、二人がつながらないと、「ひとつ」であることがわからないのです。

だから、つながるとひとつは、同じなのです。

つながっているか、つながっていないか、は実は「ひとつ」には関係ありません。もともと「ひとつ」だからです。

我々が本当は「ひとつ」だと体験するためには、まずは「つながる」が必要です。

トソスンヤン ありがとうございます



わしの田植え、これでおにぎり 一個分



最近、気になる色は… 青銅と茶と黒と透明。それってヒグラシの色かー！

## 第10回 ナエン(山本 理恵)さんについて

トソスキツマ ありがとうございます。

今回は、ナエン(山本 理恵)さんについてお伝えいたします。



### 【キオマ食堂 担当】

KIRが運営しているキオマ食堂にて、絶対の光の価値を持つ食事「7次元食」の提供を目指し、自然知性を現す作法によって調理をされていらっしゃいます。

Q1. ナエンさんにとってK-PVTとは

A1.  
終わりのみえない未知の世界の扉

Q2. ナエンさんにとってKIRとは

A2.  
今は所属先でありながら、親戚の家って感じ

ナエンさんの発するお声を聞くと、柔らかくて優しく、とても安心します。  
ナエンさんが疑問をもたれているときに発するお声を聞くと、こちら側の説明が足りていないか、自然知性に沿っていない。と、素直に感じ、もう一度物事を俯瞰して見直してみよう。とすることが出来ます。  
このことは、キオマ食堂で提供されているお食事にも現れている。そう感じます。  
いつも安心して食すことができる、おいしいお昼ごはんを、ありがとうございます！

トソスキツマ ありがとうございます。



最近、気になる色は…宝石パライバトルマリンの色(ネオンブルー・ネオングリーン)

# 植物から自然知性を学ぶ

ツケオ

## 第10回 多様な作物が在ることが自然。自然とは、そのように創造されている。

トソスツケオ ありがとうございます。

作物を育てる方法は色々あります。

多くの農業が行っているのは、農薬や化学肥料を使う慣行栽培と呼ばれるものです。

最近では、農薬を使わない有機栽培の野菜もスーパーに売られています。また、農薬や肥料も使わない自然栽培と言う農法もあります。

自然栽培とは、自然と栽培という言葉が組み合わせられています。自然は、自然ですが、栽培は人間が行なうものです。つまり相反することを組み合わせた言葉になっています。

では、自然栽培とは、どのような意味になるのでしょうか。

それは、栽培を行なう人が自然と一体になることだと言われています。

最近のほとんどの農家では、季節に合わせて、スーパーなどで販売する効率化のために、同じ種類の野菜や果物を育てています。

同じ種類の野菜や果物を育てることにより、特定の害虫が発生すると言われています。

特定の害虫をなくすために、農薬を使うようになってきているのが現在の農業です。スーパーなどで野菜や果物を販売する前の昔の農業では、特定の種類の野菜や果物を大量に作ることはなかったそうです。色々な種類の野菜や果物があることで、特定の害虫が発生することなく、生態系のバランスが保たれていました。

つまり、農業にとって、色々な種類の野菜や果物を育てることが自然といえます。このことは、人が自然に寄り添っているので、自然栽培を行っていたことになります。

今治事務所には、色とりどりの折り紙で作られたフラワーオブライフの集まりが飾られています。

そして、その色とりどりのフラワーオブライフが集まった全体を、ひとつと言っています。

色々なフラワーオブライフは、多様化の現れであり、その多様化のフラワーオブライフが集まり、ひとつのフラワーオブライフになっています。

つまり、色々な質の人やものが集まっているこの地球は、自然だと言えます。

地球以外の世界では、同じ階層や同じ響き同士が集まる世界であると言われています。でも、実は色々な多様化の集まる地球こそが、自然なのでは？と思います。そして、多様性のある自然というものは、そもそもヒトが創造しているものだと気づきました。

トソスツケオ ありがとうございます



最近、気になる色は…気になる方の身につけている色です。  
リシ・デーヴァタ・チャンダスの全体性の現れと感じます。

## 第10回 大三島の水

トソスワナム

ありがとうございます。

大三島は梅雨も明け、気温も上がり夏を迎えようとしています。毎朝、鳥と蝉の声が入り混じって聞こえてくるようになりました。お部屋も外もぐんぐんと暑くなってきています。そろそろ海岸では海に行水している人もよく見かけます。

大三島には台ダムがあります。現在、大三島全土の水道水が台ダムから水が供給されています。大三島以外にも、お隣の伯方島、大島の北部の一部にも供給されています。ダムができる以前には、水は大変貴重なものでした。各集落では、昔は水道がなく一つの共同井戸を何十件で使っていたそうです。そのうち井戸の掘削技術が発展し、各家庭でも井戸が掘られ使われだしました。しかし、皆が使いすぎると表層の水は枯渇し、水が不足することもあったそうです。島嶼部ではどこも毎年のように水不足に悩まされていましたが、大三島の鎌倉時代以前には、山々には原生林が広がり、谷間にはいくつも川が流れ、水の豊かな島であったと考えられます。そのことを考えると、今ではあまり稲作が盛んではないですが、水と関わりの深い、稲作の神事などが執り行われることは自然なことであったと思われれます。

トソスワナム



## 第10回 時

トソスヤリノ  
ありがとうございます。

時間創造マスター（TCM）育成プログラム実践編が現在行われています。

この講座では「時間を創造する」ということについて学びます。TCMをご受講されていない皆様の中にも、それぞれの「時間とは何か？」という問いがあると思います。

時。

ト：非具象が個別のうちに留まり、ヒトとなる、自己（プルシャ）の具現化。

キ：完全に純粋な様（まったく不純物がない状態）、美しく均一である。

トキ、という音はとても綺麗で、知識を現れを感じます。同じ音である鳥のトキの姿にも通じます。

また、トキは「刻」とも書きます。音読みはコク。「時を刻む」と言ったりもしますね。

コ：個別が生じる、非具象と具象をつなぐ、非具象と具象に染められる、自我（アハンカーラ）の出現。

ク：区別が生じる。

時は刻まれることでやや粗大になり、この世界にカタチとして現れてくるのでしょう。

刻む主体は私たちです。私たちが時をどのように認識するのか、それによって現れるものも全く違ってくるといえることだと思います。

現在KIRのホームページにて、TCM基礎編の録画受講が可能となっております。未受講の方は是非この深い知識に触れてみてください。また、TCMを受講されるにあたってアセンションアクセラレーター（AA）育成プログラムの知識が大切になります。こちらの講座も基礎編のみホームページからご受講可能ですので、ご検討ください。

トソスヤリノ  
ありがとうございます。





## 第10回 響きと静寂

トソスワトホ ありがとうございます。

普遍意識はつねにそこにあります。

K-PVTをすると、実習中にこころの活動を経験すると同時に静寂を体験するようになります。すなわち、「光の体験」をし、その状態を確立していくことになります。

識別が「感じる」「観る」そして「観る者」の体験へと進んでいく過程は、粗大な形だけを認識している状態から、静寂に気づき、すべてが静寂に支えられ、静寂から全てが創造されていることを知っていく過程ともいえます。

コトハの響きが形ある粗大なものを創造している、と知っているということは、すべてがコトハの響きであることを知っている、ということであり、その人はすべての経験から、静寂を体験するようになります。

トソスワトホ ありがとうございます。



## 第10回 拡大

トソスナエンありがとうございます

もしかして手のひらが大きくなっているのでは？

最近そんなふうを感じています。

そう感じる理由は、毎日のおむすびです。

キオマ食堂でおむすびを握り始めた半年前、ごはんが手のひらから溢れんばかりで手のひらに治まりきれなかった覚えがあります。

ちなみに…初めてご来店なさる方にとって、キオマ食堂のおむすびは大きいと感じるようです。今でこそ慣れましたが、普段このサイズのおむすびを作ることもし食べることもなかなかないかもしれません。そういえば最初の印象は『でっか!』と感じたものでしたが、今では両てのひらですっぽりごはんを包み込み、ふんわり握ることができるようになりました。握るおむすびひとつのごはんの量は、当時から変わっておらず、明らかに手のひらが成長しているのではと思わずにられません。

さらにノーマルおむすびに増量しての農業チーム用のおむすびは、ソフトボールを握っているような手ごたえがあり、さすがに手の中に納まりきれませんが。

もしかしたら、ナエンの手はそのうち農業チーム用のビッグサイズにも対応できるような手のひらに成長進化するのかもしれませんが。大きくなった手のひらなら、おむすびもルワオも結び甲斐がありそうです。

迫力あるおむすびとルワオが結べそうです。

創造は拡がります。

トソスナエンありがとうございます



最近、気になる色は…群青色です

## 第10回 その10

トソステケエ

ありがとうございます。

チケ菓子として時々メニューに登場する「チケーキ」は、主に仲間の誕生日のお祝いにお作りすることが多く、元を辿れば、ある方へのお祝いとお礼を兼ねて作ったものがそもそもの始まりでした。

ケーキ作ってみんなで勝手にお祝いすっぺ、と決めたものの、ひとり暮らしレベル1で大阪にいた当時の自身は、とにかく持ち物を増やさないと決めており、菓子を作れそうなものといえば、備え付けの魚焼きグリルか小さな炊飯器しかなく、クックパッド先生の情報をもとに、グルテンフリーでヴィーガンで、作ったことがないからわからんが、とにかく純粋なものを作ろうと決め、元レシピを展開させ、何度も何度も試作をし、当時の仲間に味見をしてもらいましたっけ。懐かしなー。

そのケーキをきっかけに、おもちゃのようなオーブンを導入し、へんてこな菓子を作るようになり、一時期はギャーナの知識を紐解いてミコトオンスイーツなるものを展開しようとしていたこともあり、そのほそぼそ、チョコチョコと続けてきたことの先に、いまのチケ菓子、チケカフェがあり、なんかようわからんとやってたけど、何かがつながってたのかもしんまいと、先日マンダラ・ステップと自身の歩みを照らしていた中で気がついた次第です。

三合炊きの炊飯器ケーキは、今では一升炊きの炊飯器によるケーキになり、その方に食べてもらいたい、は、この場を訪れてくださる方々へ、自身の内側の喜びを現すものとしてお出しするようになり、チケカフェの達成とはなにか、はさておき、内側から外側へ現すその規模は、大きくなっていると言えるのかしらん。ちゃうか。

続く。

トソステケエ

ありがとうございます。



最近、気になる色は…白です。200色あんねん、ってだれか言ってたなー

## 第8回 喜びも執着すると不安になる

トソスワラン  
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。  
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第8回です。

今回は、ある事務所の経営者についてのお話です。  
Aさんは30代の若手経営者で、自分の事務所を開設してから4年が経とうとしていました。しかし、Aさんには気がかりなことがありました。それは、毎年1件だけ高額の報酬を受け取る案件があり、それが事務所全体の収入の4分の1を占めているということでした。1年以上かけて大きな仕事をやり遂げ、その報酬を受け取ることは、本来とても喜ばしいことですが、それが3年、4年と続く中で「もしこの仕事が無かったら大変なことになっていたかもしれない」「来年はこのような仕事に来るだろうか」などと、だんだん不安になってきたのです。  
そこで、Aさんは、知り合いのBさんに相談することにしました。Bさんは、経営コンサルタントもしている敏腕の税理士です。Aさんは、Bさんに自分が抱えている不安を打ち明けました。  
すると、Bさんは、静かな口調で、はっきりと言いました。「Aさん、大丈夫です。毎年そのような案件が来ているなら、今年も、来年もきっと来ます。」と。これはAさんにとって全く予想外の答えでした。なぜなら、Aさんは、Bさんが安定的な収入を得るためのアドバイスをしてくれると思っていたからです。しかし、Bさんの自信に満ちた、穏やかな表情を見て、ハッと我に返りました。自分が大切なことを忘れていたことに気づいたのです。そして、何か具体的な根拠があるわけでもないのに、この先の展望が明るくなり、今まで抱えていた不安は消えていきました。

このように、本来とても喜ばしいことでも、知らず知らずのうちに人はそれに執着し、それを守ろうとしてしまう傾向があります。しかし、自身に向き合い、それに気づくことで、それを手放していくことができるのです。

トソスワラン  
ありがとうございます



最近、気になる色は…木々や草花の色。

## 第10回 祝祭を通じて思うこと

トソスキリヲ  
ありがとうございます

セミが鳴き始めたと同時に、空の青がまぶしくなり、雲の表情が変わり始めたここ今治です。暑い日が続きますが、皆さま、いかがお過ごしですか？

1日3回の祝祭が始まり、ひと月以上たちました。

キリヲは実習にムラがあり、実習が進まなくなるときは、とても時間がかかるタイプです。その理由は、疲れている、遊んでしまう、埋もれてしまう、などさまざまですが、「心が自分に向いているとき、実習の進みがとてつもなく悪くなる」ということが、最近の大きな気づきでした。

それ以来、実習の進みが悪くなるたび、「なんのための祝祭か？」を自身に問いかけ、自分に向いた思いを手放す練習をしています。

うまくいかないことも多々ありますが、練習に取り組むうち、「祝祭は、私たちが「私たち」を超えた、もっと大きなものに向けて効力を使う場である」と感じるようになってきて、そのような場を皆さまとご一緒できることを、とてもありがたく思います。

本号が発行される7月18日は、日本が7次元の階層構造の具現化に目覚める祝祭が行われます。本番に向け、着々と準備を進める仲間たちを見ていると、自分は落ちこぼれの劣等生…と、後ろめたい気持ちになるのですが、ギリギリまで準備に取り組み、本番に臨みたいと思います。

それでは、次回は約2週間後のオノホのハ、満月の日にお目にかかれますよう。

本号もお読みくださり、まことにありがとうございます。

2023年7月18日、オノホのメ、新月の日に。

トソスキリヲ  
ありがとうございます



最近、気になる色は…明るくて透明感のある、水色がかった緑

# 光の生命体「マ〜星人」-4-

## ZOOM でつながってマ〜会議



マ〜星人!? と思われた方はこちらへ



マ〜は、マ〜マ〜言っているだけじゃなくて、ルワオも結べるよ!





**KoToHa** *Integral Research*